

田淵幸一 通算444号ホームランバット

野球殿堂博物館は、2020年1月14日、館内野球殿堂ホールにおいて「2020年野球殿堂入り通知式」を開催し、田淵幸一氏、故・前田祐吉氏、故・石井連藏氏の野球殿堂入りを発表しました。田淵氏は競技者表彰委員会エキスパート表彰での殿堂入り、慶大元監督の前田氏、早大元監督の石井氏は特別表彰委員会選出の殿堂入りとなります。

当館では、田淵幸一氏通算444号ホームランバット等を、本年殿堂入り3氏を紹介するエントランスホールでの展示で公開しています。

田淵氏は法政大学時代から強打の捕手として活躍。3年春には、長嶋茂雄氏らがもつ当時の東京六大学リーグの最多本塁打記録8本を更新し、4年の秋までに22本とその記録を大きく更新しま

※4月10日現在、臨時休館中。詳細は同館ホームページ(baseball-museum.or.jp)をご覧ください。

した。1969年に阪神入り、75年には前年まで13年連続本塁打王を獲得していた王 貞治選手を抑え本塁打王を獲得。西武時代の83年5月26日の阪急戦で、長嶋茂雄氏の通算本塁打記録444号に並びました。444本塁打は当時歴代6位、大卒選手としては最多の記録(※)で、田淵氏は長嶋氏より580試合も早い1606試合での達成でした。翌日の新聞には、中学時代からの憧れで「同じ道を歩み、あんな素晴らしい人と一緒にプレーできたことが忘れられない」と長嶋氏への想いを語っています。その思い入れの強さからご自宅で大切にしていたバットを、88年の当館移転新装開館

の際にご寄贈いただきました。

このバットの他、甲子園歴史館所蔵の阪神時代ユニホーム、西武球団所蔵のユニホームやファーストミット、スパイクも展示中です。ぜひご覧ください。

※2020年現在、山本浩二(536本塁打)、金本知憲(476本塁打)、田淵幸一(474本塁打)が上位3人

公益財団法人 野球殿堂博物館
学芸員 関口貴広

